

岡山赤十字老人保健施設玉野マリンホーム運営規程

(運営規程設置の主旨)

第1条 日本赤十字社が開設する岡山赤十字老人保健施設玉野マリンホーム（以下「当施設」という。）が実施する施設サービスの適正な運営を確保するために、人員及び管理運営に関する事項を定める。

(施設の目的)

第2条 当施設は、要介護状態と認定された利用者（以下「利用者」という。）に対し、介護保険法令の趣旨に従って、利用者がその有する能力に応じ可能な限り自立した日常生活を営むことができるようにするとともに、利用者の居宅における生活への復帰を目指した介護保健施設サービスを提供することを目的とする。

(運営の方針)

第3条 当施設では、利用者の有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるよう、施設サービス計画に基づいて、医学的管理の下におけるリハビリテーション、看護、介護その他日常的に必要なとされる医療並びに日常生活上の世話をを行い、居宅における生活への復帰を目指す。

- 2 当施設では、利用者の意思及び人格を尊重し、自傷他害の恐れがある等緊急やむを得ない場合以外、原則として利用者に対し身体拘束を行なわない。
- 3 当施設は、利用者の人権の擁護、虐待の防止等のため、必要な体制の整備を行うとともに、従業者に対し、研修を実施する等の措置を講じるものとする。
- 4 当施設では、介護老人保健施設が地域の中核施設となるべく、居宅介護支援事業者、その他保健医療福祉サービス提供者及び関係市区町村と綿密な連携をはかり、利用者が地域において総合的サービス提供を受けることができるよう努める。
- 5 当施設では、明るく家庭的雰囲気重視し、利用者が「にこやか」で「個性豊かに」過ごすことができるようサービス提供に努める。
- 6 サービス提供にあたっては、懇切丁寧を旨とし、利用者、身元引受人又は利用者の代理人に対し療養上必要な事項について、理解しやすいように指導又は説明を行うとともに利用者の同意を得て実施する。
- 7 利用者の個人情報の保護は、個人情報保護法に基づく厚生労働省のガイドラインに則り、当施設が得た利用者の個人情報については、当施設での介護サービスの提供にかかるとしての利用は原則的に行わないものとし、外部への情報提供については、必要に応じて利用者、身元引受人又は利用者の代理人の了解を得ることとする。
- 8 当施設は、介護保健施設サービスを提供するにあたっては、介護保険法第118条の2第1項に規定する介護保険等関連情報その他必要な情報を活用し、適切かつ有効に行うよう努めるものとする。

(施設の名称及び所在地等)

第4条 当施設の名称所在地等は次のとおりとする。

- (1) 施設名 岡山赤十字老人保健施設玉野マリンホーム
- (2) 開設年月日 平成7年4月5日
- (3) 所在地 岡山県玉野市築港五丁目16番25号
- (4) 電話番号 0863-31-5295 F A X番号 0863-31-5919
- (5) 管理者名 施設長 横山 祐二
- (6) 介護保険指定番号 介護老人保健施設(第3350480012号)

(従業者の職種、員数)

第5条 当施設の従業者の職種、員数は、次のとおりであり、必置職については法令の定めるところによる。

- (1) 管理者 1人
- (2) 医師 1人以上
- (3) 薬剤師 1人
- (4) 看護職員 9人以上
- (5) 介護職員 24人以上
- (6) 支援相談員(社会福祉士資格所有) 2人以上
- (7) 理学療法士・作業療法士 1人以上
- (8) 管理栄養士 1人
- (9) 介護支援専門員 1人以上
- (10) 事務員 2人以上

(従業者の職務内容)

第6条 前条に定める当施設職員の職務内容は、次のとおりとする。

- (1) 管理者は、介護老人保健施設の業務全般の管理を行う。
- (2) 医師は、利用者の病状及び心身の状態に応じて、日常的な医学的対応を行う。
- (3) 薬剤師は、医師の指示に基づき調剤を行い、施設で保管する薬剤を管理するほか、利用者に対し服薬指導を行う。
- (4) 看護職員は、医師の指示に基づき投薬、検温、血圧測定等の医療行為を行うほか、利用者の施設サービス計画に基づく看護を行う。
- (5) 介護職員は、利用者の施設サービス計画に基づく介護を行う。
- (6) 支援相談員は、利用者及びその家族からの相談に適切に応じるとともに、レクリエーション等の計画、指導を行い、市町村との連携をはかるほか、ボランティアの指導を行う。
- (7) 理学療法士・作業療法士は、医師や看護師等と共同してリハビリテーション実施計画書を作成するとともにリハビリテーションの実施に際し指導を行う。
- (8) 管理栄養士は、利用者の栄養管理、栄養ケアマネジメント等の栄養状態の管理、食事相談を行う。
- (9) 介護支援専門員は、利用者の施設サービス計画の原案をたてるとともに、要介護認

定及び要介護認定更新の申請手続きを行う。

- (10) 事務員は、介護保険事務、介護サービス利用に係る施設の管理運営業務、その他必要な事務を行う。

(入所定員)

第7条 当施設の入所定員は、100人とする。

(介護老人保健施設のサービス内容)

第8条 当施設のサービスは、居宅における生活への復帰を目指し、利用者に関わるあらゆる職種の職員の協議によって作成される施設サービス計画に基づいて、利用者の病状及び心身の状態に照らして行う適切な医療及び医学的管理の下における看護・介護並びに日常生活上の世話、また栄養管理、栄養ケアマネジメント等の栄養状態や口腔衛生の管理とする。

- 2 別表1に基づき加算項目を実施する。

(利用者負担の額)

第9条 利用者負担の額を、以下のとおりとする。

- (1) 保険給付の自己負担額を、別に定める利用料金表により支払いを受ける。
- (2) 利用料として、居住費・食費、利用者が選定する特別な室料及び特別な食事の費用、教養娯楽費、行事費、私物の洗濯代、リネン費、文書料、その他の費用等利用料を、別に定める利用料金表により支払いを受ける。
- (3) 「食費」及び「居住費」において、国が定める負担限度額段階（第1段階から3段階まで）の利用者の自己負担額については、利用料金表に掲載の料金とする。

(身体の拘束等)

第10条 当施設は、原則として利用者に対し身体拘束を廃止する。但し、当該利用者または他の利用者等の生命または身体を保護するため等緊急やむを得なく身体拘束を行う場合、当施設の医師がその様態及び時間、その際の利用者の心身の状況、緊急やむを得なかった理由を診療録に記載する。

- 2 当施設は、身体的拘束等の適正化を図るため、以下に掲げる事項を実施する。
- (1) 身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。）を3月に1回以上開催するとともに、その結果について、介護職員その他の従業者に周知徹底を図る。
 - (2) 身体的拘束等の適正化のための指針を整備する。
 - (3) 介護職員その他の従業者に対し、身体的拘束等の適正化のための研修を定期的に実施する。

(虐待の防止等)

第11条 当施設は、利用者の人権の擁護、虐待の発生又はその再発を防止するため、以下に掲げる事項を実施する。

- (1) 虐待防止のための対策を検討する委員会（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。）を定期的に開催するとともに、その結果について従業者に周知徹底を図る。
- (2) 虐待防止のための指針を整備する。
- (3) 虐待を防止するための定期的な研修を実施する。
- (4) 前3号に掲げる措置を適切に実施するための担当者を設置する。
担当者名 支援相談員 武田 絵莉香

（褥瘡対策等）

第12条 当施設は、利用者に対し良質なサービスを提供する取り組みのひとつとして、褥瘡が発生しないような適切な介護に努めるとともに、褥瘡対策指針（別添）を定め、その発生を防止するための体制を整備する。

（施設の利用に当たっての留意事項）

第13条 当施設の利用に当たっての留意事項を、以下のとおりとする。

- ・施設利用中の食事は、特段の事情がない限り施設の提供する食事を摂取いただくこととする。食事は第9条に利用料として規定されるものであるが、同時に、施設は第8条の規定に基づき利用者の心身の状態に影響を与える栄養状態の管理をサービス内容としているため、食事内容を管理・決定できる権限を委任いただくこととする。
- ・入所中は医療機関の受診ができないが、当施設の医師が必要と認めた場合には「紹介状」をお渡しするため、看護師にご相談いただくこととする。
- ・入所中のお薬の処方施設にて行うため、他院からの処方はお受けにならないよう注意していただく。
- ・施設へ持ち込まれた物品には必ず、お名前をご記入いただき、また、随時お名前が消えていないか、ご確認いただくこととする。
- ・原則として、金銭、貴重品は預からない。また、紛失、盗難等の責は負わない。
- ・入所後お部屋の移動をお願いする場合がある。
- ・入所後、環境の変化等により認知症状が現れたり進行する場合があります。
- ・体調の急変時、医師の判断により医療機関に入院になる場合がある。
- ・医療機関への入院や他施設への入所の際には、退所手続きのため、保険証等を受付までご提示いただく。
- ・面会時間：施設にお問い合わせいただく。
- ・外出、外泊：外出外泊は施設長の許可と事前に届出の提出が必要。
ただし、感染症予防対策の観点から外出や外泊、面会を一時的に制限させていただく場合あり。
- ・午後6時から翌朝8時（日曜日は8時30分）までの間は自動ドアを施錠する。
- ・入浴日は、入所当日のオリエンテーションの際にお伝えし、入浴日は洗濯物が多くなるため定期的な交換を依頼する。ご家族の事情等によりそれが困難な場合は相談いただく。
- ・敷地内禁煙とする。
- ・喧嘩、口論又は暴力等他利用者への迷惑行為は禁止する。

- ・施設の秩序、風紀を乱す行為をしないこと。
- ・施設内での営利行為、宗教活動、特定の政治活動は禁止する。
- ・施設内の居室や設備、器具は本来の用法にしたがってご利用いただく。これに反したご利用により破損等が生じた場合、賠償していただく場合あり。

(非常災害対策)

第 14 条 消防法施行規則第 3 条に規定する消防計画及び風水害、地震等の災害に対処する計画に基づき、また、消防法第 8 条に規定する防火管理者を設置して非常災害対策を行う。

- (1) 防火管理者には、防火管理者の資格を有する事務課長又は防火管理者の資格を有する者とする。
- (2) 火元責任者には、各部署の職員を充てる。
- (3) 非常災害用の設備点検は、契約保守業者に依頼する。点検の際は、防火管理者が立ち会う。
- (4) 非常災害設備は、常に有効に保持するよう努める。
- (5) 火災の発生や地震が発生した場合は、被害を最小限にとどめるため、自衛消防隊を編成し、任務の遂行に当たる。
- (6) 防火管理者は、当施設職員に対して防火教育、消防訓練を実施する。
 - ① 防火教育及び基本訓練（消火・通報・避難）…………… 年 2 回以上
（うち 1 回は夜間を想定した訓練を行う）
 - ② 利用者を含めた総合避難訓練 …………… 年 2 回以上
 - ③ 非常災害用設備の使用法の徹底 …………… 随時
 その他必要な災害防止対策についても必要に応じて対処する体制をとる。
- (7) 当施設は、(6) に規定する訓練の実施に当たって、地域住民の参加が得られるよう連携に努める。

(業務継続計画の策定等)

第 15 条 当施設は、感染症や非常災害の発生時において、利用者に対する介護保健施設サービスの提供を継続的に実施するための、及び非常時の体制で早期の業務再開を図るための計画（以下「業務継続計画」という。）を策定し、当該業務継続計画に従い必要な措置を講じるものとする。

- 2 当施設は、従業者に対し、業務継続計画について周知するとともに、必要な研修及び訓練を定期的実施する。
- 3 当施設は、定期的に業務継続計画の見直しを行い、必要に応じて業務継続計画の変更を行う。

(事故発生の防止及び発生時の対応)

第 16 条 当施設は、安全かつ適切に、質の高い介護・医療サービスを提供するために、事故発生の防止のための指針（別添）を定め、介護・医療事故を防止するための体制を整備する。また、サービス提供等に事故が発生した場合、当施設は、利用者に対し必

要な措置を行う。

- 2 施設医師の医学的判断により、専門的な医学的対応が必要と判断した場合、協力医療機関、協力歯科医療機関又は他の専門的機関での診療を依頼する。
- 3 事故発生の防止のための委員会（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。）及び従業者に対する定期的な研修を実施する。
- 4 前3号に掲げる措置を適切に実施するための担当者を設置する。
担当者名 支援相談員 古谷 友美

（職員の服務規律）

第 17 条 当施設職員は、介護保険関係法令及び諸規則、個人情報保護法を遵守し、業務上の指示命令に従い、自己の業務に専念する。服務に当たっては、協力して施設の秩序を維持し、常に次の事項に留意すること。

- (1) 利用者に対しては、人格を尊重し親切丁寧を旨とし、責任を持って接遇すること。
- (2) 常に健康に留意し、明朗な態度を失ってはならない。
- (3) お互いに協力し合い、能率の向上に努力するよう心掛けること。

（職員の質の確保）

第 18 条 当施設職員の資質向上のために、その研修の機会を確保する。

- 2 当施設は、全ての従業者（看護師、准看護師、介護福祉士、介護支援専門員、介護保険法第8条第2項に規定する政令で定める者等の資格を有する者その他これに類する者を除く。）に対し、認知症介護に係る基礎的な研修を受講させるために必要な措置を講じるものとする。

（職員の勤務条件）

第 19 条 当施設職員の就業に関する事項は、別に定める岡山赤十字玉野病院就業規則による。

（職員の健康管理）

第 20 条 当施設職員は、当施設が行う年1回の健康診断を受診すること。ただし、夜勤勤務に従事する者は、年間2回の健康診断を受診しなければならない。

（衛生管理）

第 21 条 利用者の使用する施設、食器その他の設備又は飲用に供する水について、衛生的な管理に努め、又は衛生上必要な措置を講ずるとともに、医薬品及び医療用具の管理を適正に行う。

- 2 感染症が発生し又はまん延しないように、感染症及び食中毒の予防及びまん延の防止のための指針（別添）を定め、必要な措置を講ずるための体制を整備する。
 - (1) 当施設における感染症又は食中毒の予防及びまん延の防止のための対策を検討する委員会（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。）をおおむね3月に1回以上開催するとともに、その結果について、従業者に周知徹底を図る。

- (2) 当施設における感染症の予防及びまん延の防止のための指針を整備する。
 - (3) 当施設において、従業者に対し、感染症及び食中毒の予防及びまん延の防止のための研修並びに感染症の予防及びまん延の防止のための訓練を定期的実施する。
 - (4) 「厚生労働大臣が定める感染症又は食中毒の発生が疑われる際の対処等に関する手順」に沿った対応を行う。
- 3 管理栄養士、調理師等厨房勤務者は、毎月1回、検便を行わなければならない。
 - 4 定期的に、鼠族、昆虫の駆除を行う。

(守秘義務及び個人情報の保護)

第22条 当施設職員に対して、当施設職員である期間および当施設職員でなくなった後においても、正当な理由が無く、その業務上知り得た利用者、身元引受人、利用者又は身元引受人の親族の個人情報を漏らすことがないよう指導教育を適時行うほか、当施設職員等が本規定に反した場合は、違約金を求めるものとする。

(委託契約)

第23条 食事提供は、外部委託契約により実施する。

(その他運営に関する重要事項)

第24条 地震等非常災害その他やむを得ない事情のある場合を除き、入所定員及び居室の定員を超えて入所させない。

- 2 運営規程の概要、当施設職員の勤務体制、協力病院、利用者負担の額及び苦情処理の対応、プライバシーポリシーについては、施設内に掲示する。
- 3 当施設は、適切な介護保健施設サービスの提供を確保する観点から、職場において行われる性的な言動又は優越的な関係を背景とした言動であって業務上必要かつ相当な範囲を超えたものにより従業者の就業環境が害されることを防止するための方針の明確化等の必要な措置を講じるものとする。
- 4 介護保健施設サービスに関連する政省令及び通知並びに本規程に定めのない、運営に関する重要事項については、岡山赤十字玉野病院と管理者との協議に基づいて定める。

付 則

この運営規程は、令和6年4月1日より施行する。

- (1) 従前の規程はこれを廃止する。

別表1 以下の加算項目を実施する。

- ・ 夜勤職員配置加算
- ・ 短期集中リハビリテーション実施加算
- ・ 認知症短期集中リハビリテーション実施加算
- ・ 在宅復帰・在宅療養支援機能加算
- ・ 外泊時費用
- ・ ターミナルケア加算
- ・ 初期加算
- ・ 退所時栄養情報連携加算
- ・ 再入所時栄養連携加算
- ・ 入所前後訪問指導加算
- ・ 試行的退所時指導加算
- ・ 退所時情報提供加算
- ・ 入退所前連携加算
- ・ 訪問看護指示加算
- ・ 協力医療機関連携加算
- ・ 栄養マネジメント強化加算
- ・ 経口移行加算
- ・ 経口維持加算
- ・ 口腔衛生管理加算
- ・ 療養食加算
- ・ かかりつけ医連携薬剤調整加算
- ・ 緊急時治療管理
- ・ 所定疾患療養費
- ・ 認知症チームケア推進加算
- ・ 認知症行動・心理症状緊急対応加算
- ・ リハビリテーションマネジメント計画書情報加算
- ・ 褥瘡マネジメント加算
- ・ 排せつ支援加算
- ・ 自立支援推進加算
- ・ 科学的介護推進体制加算
- ・ 安全対策体制加算
- ・ 高齢者施設等感染対策向上加算
- ・ 振興感染症等施設療養費
- ・ 生産性向上推進体制加算
- ・ サービス提供体制強化加算
- ・ 介護職員処遇改善加算
- ・ 介護職員等ベースアップ等支援加算
- ・ 介護職員等処遇改善加算